

# 株主の皆様へ

## 第72期中間報告書

〈2019年1月1日～2019年6月30日〉



山崎製パン株式会社

## 株主の皆様へ



### 目次

株主の皆様へ	1
経営基本方針、 21世紀のヤマザキの経営方針	2
事業の概要	3
セグメント別の状況	5
製品情報	9
社会貢献への取組み	11
財務諸表（連結）	13
財務諸表（単体）	15
YAMAZAKIインフォメーション	16
株式の状況等	17
グループ概要	18
株主メモ	裏表紙

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。さて、ここに当社グループ第72期事業年度の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申しあげます。

当第2四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年6月30日まで）におきましては、お客様の節約志向が続く中で、人件費や物流費の増加に加え、原材料価格の上昇やエネルギーコストの増加もあり、厳しい経営環境となりました。

このような情勢下でありまして、当社グループは、主力のパン製品を中心に発酵種ルヴァンを活用した品質向上をはかるとともに、科学的根拠の上に立った消費期限の延長に積極的に取り組むなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、売上確保をめざしました。また、製パン業界全般に拡大した「イーストフード、乳化剤不使用」等の強調表示につきまして、当社は3月末にホームページを立ち上げ、この強調表示はお客様に誤認を与える不適切な表示であるとする見解とその科学的根拠を明らかにしました。その結果、4月度の当社の食パン、菓子パンの売上は着実に回復し、5月度は若干低迷いたしましたが、6月度は改めて回復傾向となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、主力のパン類の売上が伸び悩む中で人件費やエネルギーコストの増加もあり減益となりましたが、山崎製パン本体では、4月以降の第2四半期は増収・増益となり回復傾向となりました。

下半期につきましては、これまでの対策が成果に結びつき、7月以降、売上面でも手応えを得て前進できる状況となってまいりました。引き続き、主力製品の品質向上と消費期限延長を継続的に実施して取扱拡大をはかるとともに、高品質・高付加価値・高単価製品を開発する一方で値頃感のある製品を投入する二極化戦略により、売上の向上をめざしてまいります。

デイリーヤマザキ事業につきましては、「週次商品施策・営業戦略小委員会」を毎週開催し、ヤマザキパンの生産部門と営業部門と一体となった高品質・高付加価値・高単価の特撰パン・和洋菓子の開発を積極果敢に推し進めると同時に、日々の仕事の実態をしっかりと把握し、変化に即応して対策を実施し、業績回復をめざしてまいります。

今後、当社グループ一丸となって、新しい価値と新しい需要を創造し業績向上を期してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

2019年8月

代表取締役社長

飯島延浩

# 経営基本方針

## 綱領

- (1) わが社は、企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、個人の尊厳と自由平等の原理に基づき、困難に屈することのない勇氣と忍耐とによって高い倫理的水準に導かれる事業を永続させること。
- (2) われわれは、常に良きものへ向って絶えず進歩しつづけるため、各人が自由な決心に基づき、正しき道につき、断固として実行し、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進すること。

## 具体方針

- ① 最高の品質と最善のサービス(今日到達しうるベストオリティー・ベストサービスの実践、実行、実証)を目標とし、品質は今到達しうる最高のものであり、新鮮であること。それは製品、組織、仕事、工場、財産並びに設備のなかに表わさるべきこと。
- ② 充実した効率のよい積極的な組織体を作りあげ、そして維持拡充していくため、あらゆる可能な努力を注ぐこと。その組織体の人々は、会社を信頼し、仕事が喜びであり、普通ではできない仕事を完遂することが個人的な願望にまでなっていること。
- ③ 入手できる限りの、事業に独特な要求に適合した最善の設備と施設を備えること。
- この設備や施設の調達は、維持運営が経済的であることと会社の組織に最も仕事をしやすい道具を与えるという二つの観点から考えられること。
- ④ 産業界と一般社会との間に協力関係を創り出し、維持していくため、実行可能な一切のことを行なっていくこと。
- ⑤ 業務の遂行に関するすべての決定を行なうにあたって、常にその一件を処理する上での便宜よりも、事業全体にとって何が正しいか、何が最善であるかを中心に考えること。
- ⑥ 顧客に接するときは、常に公明正大で、かつ相手が何を欲しているかを十分に考慮すること。配達や品質やサービスについては、その成果が最優秀なものになるように努力すること。

## 21世紀のヤマザキの経営方針

当社は、21世紀の事業環境と社会の変化に対応するため、「企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進する」という顧客本位の精神で、潜在需要に着目しイノベーション(技術革新)によって需要を創造するという、前向き積極的なピーター・ドラッカー博士の経営理論に導かれる山崎製パン株式会社の「経営基本方針(綱領および具体方針)」を改めて高く掲げると同時に、これを補完するものとして、「日々、お取引先からご注文いただいた品は、どんな試練や困難に出会うことがあっても、良品廉価・顧客本位の精神でその品を製造し、お取引先を通してお客様に提供する」という、新しいヤマザキの精神に導かれ、科学的根拠の上に立った食品安全衛生管理体制の上に築き上げる科学的・合理的・効率的な事業経営手法として、生命の道の教えに従ったすべての仕事を種時きの仕事から開始する部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を実践、実行、実証することで、新しい

価値と新しい需要を創造し、社会の負託に応え社業を前進させることを21世紀のヤマザキの経営方針といたします。

事業経営の具体的遂行に当たっては、経営陣、管理職は、本物の5S・全員参加の5Sとピーター・ドラッカー博士の5つの質問を連動させる「2本立ての5S」を行うとともに、生命の道の教えに従った部門別製品施策・営業戦略をピーター・ドラッカー博士の5つの質問と連動させ、「私たちの使命は何ですか」(What is our mission?)と問うだけでなく「私の使命は何ですか」(What is my mission?)と問い、生産部門・営業部門一体となった業務を推進するとともに、内部管理体制を充実・強化して、各部門毎の自主独立の協力体制を構築いたします。また、「良品廉価・顧客本位の精神で品質と製品、サービスをもって世に問う」というヤマザキの精神と「知恵と知識によって変化に挑戦し、新しい価値と新しい需要を創造する」という生命の道を導く言葉によって日々の仕事の実践、実行、実証に励み、業績の着実な向上を期してまいります。

## 当第2四半期における連結業績の概況

売上高	<b>5,240億41百万円</b>	(対前年同期比 99.0%)
営業利益	<b>134億62百万円</b>	(対前年同期比 89.9%)
経常利益	<b>147億83百万円</b>	(対前年同期比 93.7%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	<b>78億48百万円</b>	(対前年同期比 90.1%)

## 当第2四半期の事業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産の弱さが続き景気の停滞感が強まりました。4月1日に新元号が公表され、令和効果や10連休の消費押し上げ効果がありましたものの、個人消費は総じて力強さを欠きました。

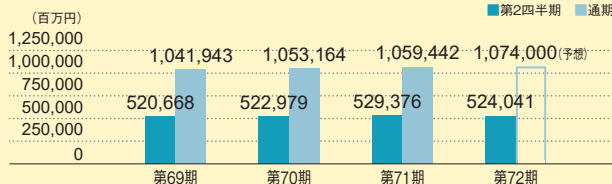
当業界におきましては、お客様の節約志向が続き販売競争が激化する中で、人手不足を背景とした人件費や物流費の増加に加え、原材料価格の上昇やエネルギーコストの増加もあり、収益が圧迫される厳しい経営環境となりました。

また、近年、製パン業界全般に拡大した「イーストフード、乳化剤不使用」等の強調表示について、昨年10月、消費者庁表示対策課より日本パン公正取引協議会に対し、景品表示法違反の被疑事件として情報提供がありました。日本パン工業会並びに日本パン公正取引協議会の会長社である当社は、本年1月から、「イーストフード、乳

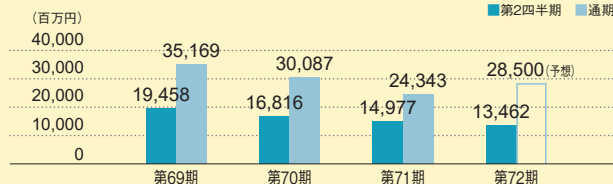
化剤不使用」等の強調表示が製パン業界に拡大した経緯を徹底的に調査するとともに、その強調表示の科学的根拠について徹底した分析を行いました。その結果、「イーストフード、乳化剤不使用」等の強調表示は、「イーストフード、乳化剤不使用」表示のあるパン類があたかも食品安全面、健康面で優位性があるかのような誤認をお客様に与え、イーストフード、乳化剤を使用している食パンや菓子パンに問題があるかのような誤認を生み出し、お客様の不信感を生み出していることが判明いたしました。また、徹底した調査と分析の結果、「イーストフード、乳化剤不使用」等の強調表示は、科学的根拠の上に立ったものではないことが明らかになりました。当社は、日本パン工業会、日本パン公正取引協議会の中で会員企業と協議しましたが、業界内の見解の一致を得ることができなかったため、3月末にホームページ(※)を立ち上げ、「イーストフード、乳化剤不使用」等の強調表示はお客様に誤認を与える不適切な表示であるとする見解とその科学的根拠を明らかにしました。また、その後の業界内での協議の結果、6月には日本パン工業会で「イーストフード、乳化剤不使用」等の強調表示を自粛する自主基準が決議され、7月には日本パン公正取引協議会においても同様の自主基準が決議されました。このような努力の結果、4月度の当社の食パン、菓子パンの売上は着実に回復いたしました。5月度は若干低迷いたしました。6月度は改めて回復傾向となりました。

当社グループは、「厳選100品」を中心とした主力製品

### 売上高



### 営業利益





の品質向上と消費期限の延長に積極的に取り組みました。また、消費の二極化に対応して、高品質・高付加価値製品を開発する一方で、値頃感のある製品を投入するなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、売上確保をめざしました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、主力のパン類の売上が伸び悩む中で人件費やエネルギーコストの増加もあり、減益となりました。

(※)ホームページアドレス

<http://www.yamazakipan.co.jp/oshirase/0326.html>

## 通期の見通し

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、雇用・所得環境の改善が進む中、景気の復調が期待されますが、本年10月の消費税率引上げの影響や米中貿易摩擦の懸念もあり、景気の先行きは予断を許しません。当業界におきましては、競争が激化する中で人件費や物流コストの増加もあり、厳しい経営環境が続くものと思われま

す。このような状況下にあります。当社グループは、引き続き「厳選100品」を中心とした主力製品の品質向上と消費期限延長を継続的に実施して取扱拡大をはかるとともに、パン類ではルヴァン種を活用した品質向上と新製品開発に積極的に取り組んでまいります。また、二極化戦略として高品質・高付加価値・高単価製品を開発する一方で値頃感のある製品を投入するなど、営業・生産が一体とな

った部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進してまいります。さらに、イングリッシュマフィンの新ラインを活用して需要拡大をはかるとともに、量販店にパン類の焼成後冷凍製品の積極提案を行うなど新たな市場開拓をめざします。

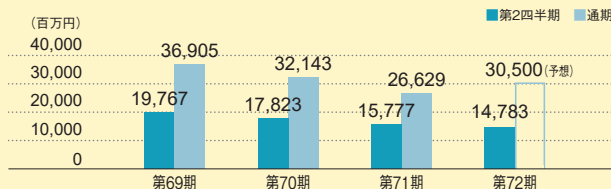
デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「週次商品施策・営業戦略小委員会」を通じて、ヤマザキパンの生産部門と営業部門と一体となった高品質・高付加価値・高単価の特撰パン・和洋菓子の開発を積極果敢に推し進めると同時に、日々の仕事の実態をしっかり把握し、変化に即応して対策を実施し、お客様の求める商品・サービスを適確に提供するとともに、小売事業のあるべき姿を追求する努力を積み重ね、一步一步着実に前進し業績回復をめざしてまいります。

さらに、当社グループ一丸となって内部管理体制の充実と業務の効率化をはかり、新しい価値と新しい需要を創造して所期の目標達成をめざしてまいります。

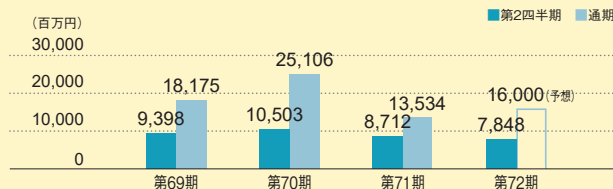
### 通期の連結業績見通し

売上高	<b>1兆740億円</b> (対前期比 101.4%)
営業利益	<b>285億円</b> (対前期比 117.1%)
経常利益	<b>305億円</b> (対前期比 114.5%)
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>160億円</b> (対前期比 118.2%)

経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



## 食品事業

売上高 **4,922億92百万円** (対前年同期比 99.4%)

**93.9%**  
売上高構成比

## 食パン部門

売上高 **503億76百万円** (対前年同期比 98.4%)

**9.6%**

食パンは、「イーストフード、乳化剤不使用」表示の影響を受け、ヤマザキパンの製品からのお客様離れが生じたこともあり第1四半期の売上は低迷しましたが、3月末にホームページを立ち上げ、ヤマザキパンの科学的根拠に立った見解と「イーストフード、乳化剤不使用」表示は科学的根拠の上に立たない不適切な表示であることを明らかにしたこともあり第2四半期の売上は回復傾向となりました。主力の「ロイヤルブレッド」や「新食感宣言ルヴァン」が伸長するとともに、3月にルヴァン種を活用してリニューアルした「ふんわり食パン」の寄与もあり、6月は前年同期の売上を確保できました。



超芳醇



ロイヤルブレッド



レーズンゴールド



ダブルソフト

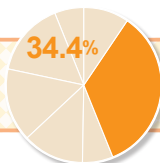


ふんわり食パン



新食感宣言ルヴァン

## 菓子パン部門 売上高 **1,804億82百万円** (対前年同期比 98.5%)



菓子パンは、食パンと同様、添加物表示によってお客様の不信感が生じたこともあり昨年の下半期から売上は低迷しました。高級シリーズなどの主力製品を中心にルヴァン種を活用した品質向上を推進し、科学的根拠の上に立った消費期限の延長に積極的に取り組み、3月以降第2四半期の売上は回復傾向となりました。さらに、6月にはSNSを活用して菓子パンの売上上位品の品質訴求や食べ方提案を発信し、主力の菓子パンの売上は回復しました。しかしながら、菓子パン部門全体の売上は、米国会社の売上減少もあり前年同期を下回りました。



高級ジャムパン



カレーパン

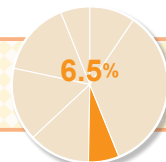


ミニスナックゴールド



塩バターフランスパン

## 和菓子部門 売上高 **340億49百万円** (対前年同期比 101.0%)



和菓子は、農林水産省と厚生労働省が作成し公表した消費期限設定に関するガイドラインに従って科学的根拠をもった消費期限の延長を実施しました。昨年、消費期限を延長した大福、まんじゅう、どら焼などが好調に推移したことに加え、際物製品や「北海道チーズ蒸しケーキ」など蒸しパンの消費期限を延長して取扱拡大をはかり、順調な売上となりました。



豆大福



吹雪まんじゅう



どら焼



おはぎ詰合せ



北海道チーズ蒸しケーキ

## セグメント別の状況

**洋菓子部門 売上高669億97百万円** (対前年同期比 100.1%)

12.8%

洋菓子は、和菓子と同様の趣旨で生ケーキやスナックケーキの消費期限の延長を行いました。主力の2個入り生ケーキや「まるごとバナナ」などのチルドケーキが好調に推移するとともに、コンビニエンスストア向け製品対応を強化したチーズケーキ、シュークリーム、スナックケーキが大きく寄与し、山崎製パン(株)の洋菓子は好調に推移しましたが、(株)不二家の洋菓子チェーンの店舗減少もあり、洋菓子部門全体の売上は前年同期並みに止まりました。



苺のショートケーキ



まるごとバナナ



レーズンサンド



大きなツインシュー

**調理パン・米飯類部門 売上高796億15百万円** (対前年同期比 100.3%)

15.2%

調理パン・米飯類は、和紙包装のハンバーガーの伸長もあり調理パンが順調に推移しました。米飯類は、おにぎりが好調でしたがコンビニエンスストア向けの麺や惣菜の伸び悩みがありました。調理パン・米飯類部門全体の売上は、前年同期を上回りました。



おかず幕の内弁当



ざるそば定食



紅鮭

シーチキンマヨネーズ



とろ〜りとしたチーズのハンバーガー



こだわりのソースの焼きそばパン



大きなサンドミックス



製菓・米菓・その他商品類部門 売上高 **807億70百万円** (対前年同期比 99.7%)

15.4%

製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「ホームパイ」や(株)東ハトの「ポテコ」が好調でしたが、ヤマザキビスケット(株)のビスケット、クラッカーの新ブランドの不振もあり、売上は前年同期を下回りました。



ノアール



ルヴァンプライムスナック



ポテコ



ホームパイ

流通事業

売上高 **260億91百万円** (対前年同期比 91.3%)

5.0%  
売上高構成比

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「DY・Yショップ製品施策・営業戦略小委員会」を定期的に開催し、デイリーヤマザキの商品本部が生産各部門と一体となって商品開発を推進するとともに、「首都圏リージョン小委員会」を通じてデイリーヤマザキ一店一店の課題に取り組み、売上向上と収益改善をめざしました。

また、6月からは「週次商品施策・営業戦略小委員会」をヤマザキパン生産本部、営業本部、デイリーヤマザキ合同で毎週開催し、デイリーヤマザキ事業の日々の仕事の中から問題・課題を把握し、その問題・課題に取り組む生産部門、営業部門のあるべき姿の追求を行い、お客様が求める高品質・高付加価値・高単価の特撰商品を迅速に提供する取組みを開始しました。

当第2四半期の売上は、直営店の減少もあり前年同期を下回りました。

当第2四半期末の店舗数

**1,454店**

(前年同期末差 85店減)

●デイリーヤマザキ

**1,087店**

(前年同期末差 87店減)

●ニューヤマザキディリーストア

**348店**

(前年同期末差 9店増)

●ヤマザキディリーストア

**19店**

(前年同期末差 7店減)



デイリーヤマザキ瀬戸矢形店 (愛知県瀬戸市)

## 発酵種ルヴァンを使用した製品のご紹介

発酵種ルヴァンには、乳酸菌と酵母の発酵作用により、パン生地に小麦本来の風味やコクのある旨みを引き出す効果があります。

～ふんわり、ミミまでやわらかい～

### 「ふんわり食パン」

幅広いお客様にご愛顧いただいている「ふんわり食パン」を、本年3月よりリニューアル発売しました。

「ふんわり食パン」は、原料配合と焼成方法を工夫した当社独自の製法により、ミミまでやわらかく、しっとり感とふんわりソフトな食感が特長の食パンです。

パン生地に乳酸菌を配合するとともに発酵種ルヴァンを使用することで、「ふんわり食パン」の特長であるしっとり感を高めて口どけ良く仕上げるとともに、風味を改善しました。

ミミまでやわらかく、しっとりしているので、サンドイッチに最適です。



### 高級シリーズ

「高級つぶあん」は、丹誠込めて炊きあげた栗粒入りのつぶあんを丁寧に包み込んだあんぱんです。発酵種ルヴァンを使用することで、パンのやわらかさ、しっとり感が向上し、さらにおいしくなりました。

幅広い年齢層に支持されている、ヤマザキのこだわりシリーズです。



### コッペパンシリーズ

「コッペパン (ジャム&マーガリン)」は、軽い食感のコッペパンに、イチゴジャムとマーガリンをたっぷりサンドした菓子パンのロングセラー製品です。発酵種ルヴァンを使用することで、パンのやわらかさ、しっとり感が向上し、おいしさがアップしました。



## まるごとソーセージ

「まるごとソーセージ」は、粗挽きソーセージを丸ごと1本のせたボリュームのある惣菜パンです。発酵種ルヴァンを使用することで、パンのふんわり感が向上しました。マヨネーズがさらに味を引き立て、おいしくお召しあがりいただけます。



## カレーパン



「カレーパン」は、こだわりの自家製カレーを包んでこんがり揚げた惣菜ドーナツです。じっくり煮込んで野菜と肉の旨みを引き出した味わいが、長年にわたり幅広いお客様に支持されています。発酵種ルヴァンを使用することで、パンのしっとり感が向上し、さらにおいしくなりました。

## 自家製発酵種ルヴァンとは

発酵種ルヴァンは、ライ麦粉、水、モルト（麦芽）を混ぜ合わせた元種をつくり、この元種に小麦粉、水を追加して発酵を繰り返すことでできあがります。その一部を継ぎ種として残し、そこに小麦粉、水を追加して、発酵種ルヴァンを増やしていきます。

当社は、発酵種ルヴァンの配合・工程条件等の研究を重ね、独自の発酵種ルヴァンを開発しました。各工場製造ラインに発酵槽を設置して、フレッシュな自家製の発酵種ルヴァンを日々安定的に製造しております。

この自家製発酵種ルヴァンは、特に油分の少ない配合の食パンやフランスパン等と相性が良く、小麦本来の風味やコクのある旨みを実現することができます。

### 新食感宣言ルヴァン

「新食感宣言ルヴァン」は、自家製発酵種ルヴァンを使用することにより、小麦本来の風味を実現した山型食パンです。トーストすると「表面はサククリ、中はもちもち」とした食感をお楽しみいただけます。



### 塩バターフランスパン

「塩バターフランスパン」は、自家製発酵種ルヴァンを使用した生地に、発酵バター入りマーガリンをたっぷり練り込んで焼きあげました。フランス産ロレーヌ岩塩の程良い塩味とバター風味が特長の食べやすいフランスパンです。



### 公益財団法人 <sup>ファイダー</sup> 国際開発救援財団(FIDR)

## 国際協力活動および緊急援助活動を推進しています

当社は、国際社会からの要請に応える社会貢献への取組みの一環として、開発途上国および自然災害被災地の人々がよりよい生活ができることを願い、公益財団法人国際開発救援財団 <sup>ファイダー</sup> (FIDR) への支援を通じ、国際協力活動と緊急援助活動を推進しております。

### FIDRへの支援

FIDRは、1990年に当社創業者の故・飯島藤十郎社主が主たる基本財産を出捐して特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) を支援する目的で設立した民間の援助団体です。現在は、子どもの未来を育む「チャイルド・ケア」と「日本企業と日本人による国際協力の推進」をミッションに掲げ、開発途上国の人々の生活環境の向上と発展を目的とした国際協力援助事業と、国内外の自然災害に対する緊急援助事業を実施しております。

現在は、カンボジア、ベトナム、ネパールで、医療、保健衛生、教育、農業、収入向上などの分野において、地域に根ざした援助活動を行っています。また、東日本大震災をはじめ、平成30年7月豪雨災害、インドネシア地震等への緊急援助活動にも積極的に取り組んでいます。

当社はこれらの活動を積極的に支援しております。

### 子どもの栄養改善への援助活動

FIDRは、カンボジアで子どもの栄養改善に取り組んでいます。カンボジアは、子どもの栄養状態が東南アジア諸国の中でも特に悪い状況にあり、その主な要因は栄養に関する知識の不足によるものと思われま

す。近年、カンボジア政府は国民の栄養改善に力を入れる方針を打ち出し、全国の小中高校で栄養教育を開始することとしました。FIDRは、まずカンボジア独自の「食生活指針」の策定に取り組み、2017年にこの指針が国の基準として正式に制定されました。

次いで、日本人の栄養教育専門家を派遣し、栄養単元の教科書執筆と指導カリキュラムの作成を進めるとともに、「食生活指針」を生徒に正しく指導できるように現地教員のトレーニングを実施しております。



モデル校での栄養教育授業の様子（カンボジア）



## ● 国内の災害への緊急援助活動

FIDRは、国内における地震や洪水等の大規模災害に対し緊急援助を実施しております。

2011年に発生した東日本大震災へは、発生直後は避難所や仮設住宅への物資の支援を行い、その後は漁船や漁具等の水産業の復旧支援や、仮設の保育園や遊具の支援、部活動サポート等の子どもたちへの支援、また、住民の方々による自主的な地域活動の後押しなど、被災地の状況に応じた活動を実施しました。本年3月、鉄道が復旧した陸中山田駅近くの飯岡地区にコミュニティ活動の拠点となる集会施設の建設を支援し、この完成をもって活動を



集会施設でのコミュニティ活動の様子  
(岩手県山田町)

完了しました。

2016年に発生した熊本地震へは、被災地の子ども達への支援活動に取り組みました。

また、昨年発生した平成30年7月豪雨災害へは、岡山県倉敷市の真備町地区の被災した5カ所の保育園に計120点の遊具や備品を、中学、高校に部活動の運動具や楽器、美術用具等を支援し、早期の保育、教育環境の回復を後押ししました。



支援した机や椅子等を使用する子どもたち  
(岡山県倉敷市真備町地区)

また、昨年9月に発生した北海道胆振東部地震で大きな被害が発生した安平町、厚真町、むかわ町で、仮設の校舎や住宅等への空調機等の備品設置の支援に取り組んでおります。



空調機設置を支援する仮設住宅  
(北海道厚真町)

### FIDRホームページのご案内

FIDRの援助活動は、FIDRの法人賛助会員、個人賛助会員など多くの方々のご支援を受けて実施しております。FIDRの活動の詳細、支援方法などにつきましては、下記のホームページで紹介しております。

<http://www.fidr.or.jp/>

### ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金への協力

当社は、FIDRとWVJが共催・実施しているヤマザキ「ラブ・ローフ」募金に協賛し、約4,200の販売店に募金箱を設置しております。



## 貸借対照表のポイント

### 流動資産

受取手形及び売掛金が108億16百万円減少したこと等により、流動資産合計で74億11百万円減少し、2,491億97百万円となりました。

### 有形・無形固定資産

有形固定資産は、生産能力の増強や品質向上のための生産設備の更新等を実施しましたが、償却が進んだこともあり18億24百万円の減少となりました。また無形固定資産は、のれんの償却等により4億68百万円の減少となりました。当第2四半期の設備投資額は、164億51百万円、減価償却実施額は175億40百万円であります。

### 投資その他の資産

所有株式株価の上昇により投資有価証券が増加したこともあり1億46百万円増加し、1,400億47百万円となりました。

### 負債合計

仕入債務等の減少や借入金の約定返済により、負債合計は154億77百万円減少し、3,708億46百万円となりました。

### 純資産合計

利益剰余金が35億円、その他有価証券評価差額金が14億69百万円それぞれ増加したことにより、純資産合計は59億20百万円増加し、3,484億74百万円となりました。

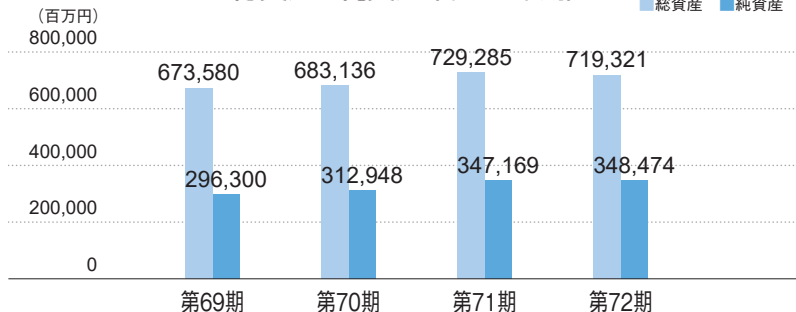
## 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

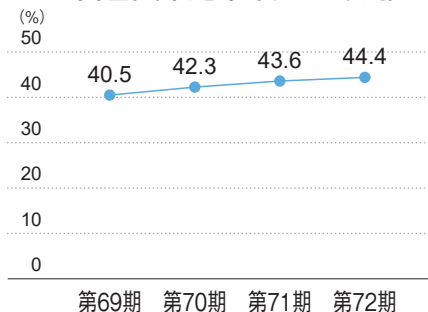
科目	当第2四半期末 2019年6月30日現在	前期末 2018年12月31日現在	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	249,197	256,609	△7,411
固定資産	470,123	472,268	△2,145
有形固定資産	312,870	314,694	△1,824
無形固定資産	17,206	17,674	△468
投資その他の資産	140,047	139,900	146
資産合計	719,321	728,878	△9,557
<b>負債の部</b>			
流動負債	214,066	224,147	△10,080
固定負債	156,780	162,177	△5,396
負債合計	370,846	386,324	△15,477
<b>純資産の部</b>			
株主資本	304,362	300,862	3,500
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,667	9,667	-
利益剰余金	288,922	285,422	3,500
自己株式	△5,241	△5,241	△0
その他の包括利益累計額	14,819	12,120	2,698
非支配株主持分	29,292	29,570	△277
純資産合計	348,474	342,553	5,920
負債純資産合計	719,321	728,878	△9,557

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 総資産・純資産(第2四半期)



## 自己資本比率(第2四半期)



(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る数値については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

## 損益計算書のポイント

### 売上高

パン類や製菓・米菓・その他商品類が伸び悩んだこともあり、前年同期に比べ1.0%の減収となりました。

### 営業利益

光熱水費や労務費等コストの増加により売上原価率が前年同期を0.5%上回ったこともあり、前年同期に比べ10.1%の減益となりました。

### 経常利益

前年同期に比べ6.3%の減益で、売上高経常利益率は2.8%となりました。

### 親会社株主に帰属する四半期純利益

特別損失の増加もあり、前年同期に比べ9.9%の減益となりました。

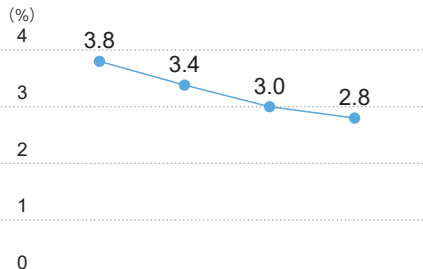
## 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 2019年1月1日から 2019年6月30日まで	前第2四半期 2018年1月1日から 2018年6月30日まで	増減
売上高	524,041	529,376	△5,335
売上原価	337,020	337,766	△746
売上総利益	187,021	191,610	△4,588
販売費及び一般管理費	173,558	176,632	△3,074
営業利益	13,462	14,977	△1,514
営業外収益	2,074	1,587	486
営業外費用	753	787	△33
経常利益	14,783	15,777	△994
特別利益	65	72	△7
特別損失	1,708	1,303	404
税金等調整前四半期純利益	13,139	14,546	△1,406
法人税等合計	5,080	5,497	△417
四半期純利益	8,059	9,048	△989
非支配株主に帰属する四半期純利益	211	336	△124
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,848	8,712	△864

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 売上高経常利益率(第2四半期)



第69期 第70期 第71期 第72期

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 2019年1月1日から 2019年6月30日まで	前第2四半期 2018年1月1日から 2018年6月30日まで	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	35,382	28,961	6,420
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,401	△22,175	2,773
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,348	△17,073	4,725
現金及び現金同等物に係る換算差額	△29	△41	11
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,602	△10,328	13,931
現金及び現金同等物の期首残高	106,423	129,253	△22,830
現金及び現金同等物の四半期末残高	110,025	118,924	△8,898

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 2019年6月30日現在	前期末 2018年12月31日現在	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	145,464	148,397	△2,932
固定資産	395,185	397,184	△1,999
有形固定資産	207,077	210,813	△3,735
無形固定資産	3,504	3,365	139
投資その他の資産	184,603	183,006	1,596
<b>資産合計</b>	<b>540,649</b>	<b>545,582</b>	<b>△4,932</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	142,217	149,189	△6,972
固定負債	94,450	97,233	△2,783
<b>負債合計</b>	<b>236,668</b>	<b>246,423</b>	<b>△9,755</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	270,475	267,221	3,253
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,676	9,676	-
利益剰余金	255,025	251,772	3,253
自己株式	△5,241	△5,241	△0
評価・換算差額等	33,506	31,937	1,569
<b>純資産合計</b>	<b>303,981</b>	<b>299,159</b>	<b>4,822</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>540,649</b>	<b>545,582</b>	<b>△4,932</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 2019年1月1日から 2019年6月30日まで	前第2四半期 2018年1月1日から 2018年6月30日まで	増減
売上高	376,221	376,698	△476
売上原価	252,674	250,294	2,380
売上総利益	123,546	126,403	△2,856
販売費及び一般管理費	113,353	115,185	△1,832
<b>営業利益</b>	<b>10,193</b>	<b>11,217</b>	<b>△1,024</b>
営業外収益	2,853	2,663	189
営業外費用	623	608	15
<b>経常利益</b>	<b>12,422</b>	<b>13,273</b>	<b>△850</b>
特別利益	57	65	△7
特別損失	1,413	981	432
<b>税引前四半期純利益</b>	<b>11,066</b>	<b>12,356</b>	<b>△1,290</b>
法人税等合計	3,465	3,962	△497
<b>四半期純利益</b>	<b>7,601</b>	<b>8,393</b>	<b>△792</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期の期首から適用しており、前期に係る数値については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。



# YAMAZAKI インフォメーション

## ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」

2019年9月1日（日）から11月15日（金）までの期間中、ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」キャンペーンを実施いたします。

詳しくは対象製品のパッケージまたは当社ホームページをご覧ください。

**Aコース** 東京ディズニーリゾート®パークチケット(ペア) + 東京ディズニーリゾート・ギフトカード5,000円分

**Bコース** アウトドアグッズLOGOS(ロゴス)3点セット

**Cコース** ヤマザキグループの「お菓子詰合せ」

**秋のわくわくプレゼント 2019**

毎週抽選で総計 **33,000** 名様に当たる!

9/1(日)~11/15(金)

応募期限:11月20日(水)当日消印有効

**Aコース 12点応募**

TOKYO Disney RESORT  
パークチケット + 東京ディズニーリゾート・ギフトカード 5,000円分

**Bコース 12点応募**

アウトドアグッズ LOGOS(ロゴス)3点セット

**Cコース 4点応募**

ヤマザキグループの「お菓子詰合せ」

## 株主優待情報

株主様の日頃のご支援にお応えするため、毎年12月31日現在の株主様（ご所有株式数1,000株以上）に対し、市価3,000円相当の自社製品の詰合せを毎年4月にお届けいたします。



写真は本年4月にお届けしたものです。

株主優待制度は、当社株式1,000株(単元株式数100株×10単元)以上を所有されている株主様を対象といたします。

## ホームページのご案内

投資家の皆様向けの「決算・IR情報」をはじめ、製品情報やおすすめのレシピなど、さまざまな情報を公開しています。



<http://www.yamazakipan.co.jp/>

## 株式の状況

発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式総数	220,282,860株
株主総数	17,920名 (前期末比4,233名増)

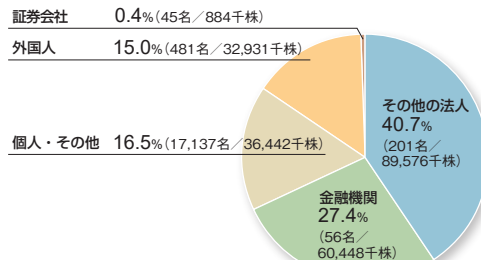
## 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
飯島興産株式会社	15,602,895	7.1
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	12,500,000	5.7
株式会社日清製粉グループ本社	11,062,343	5.0
三菱商事株式会社	9,849,655	4.5
住友商事株式会社	9,355,000	4.3
丸紅株式会社	8,165,880	3.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,632,500	3.0
明治安田生命保険相互会社	6,501,500	2.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,227,100	2.4
株式会社みずほ銀行	3,946,419	1.8
株式会社三井住友銀行	3,946,419	1.8

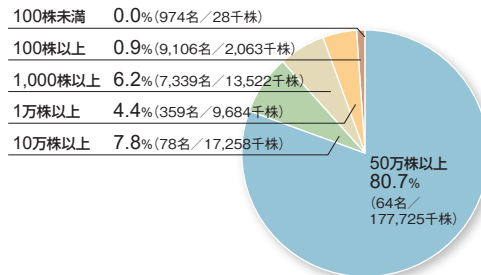
(注) 持株比率は、自己株式(2,891,384株)を控除して算出しております。

## 株式分布状況

### ●所有者別



### ●所有株数別



## 役員・従業員

### 役員 (2019年8月1日現在)

代表取締役社長	飯島 延浩	取締役	吉田谷良一
取締役副社長	飯島 幹雄	取締役	山田 裕樹
専務取締役	飯島佐知彦	取締役	荒川 弘
専務取締役	横濱 通雄	取締役	島田 秀男 (社外取締役)
専務取締役	会田 正久	取締役	畑江 敬子 (社外取締役)
専務取締役	犬塚 勇	常勤監査役	大本 一弘
専務取締役	関根 治	常勤監査役	松田 道弘 (社外監査役)
専務取締役	深澤 忠史	常勤監査役	松丸 輝夫
常務取締役	園田 誠	監査役	齋藤 昌男 (社外監査役)
取締役	荘司 芳和	監査役	馬場久萬男 (社外監査役)

### 従業員 (2019年6月30日現在)

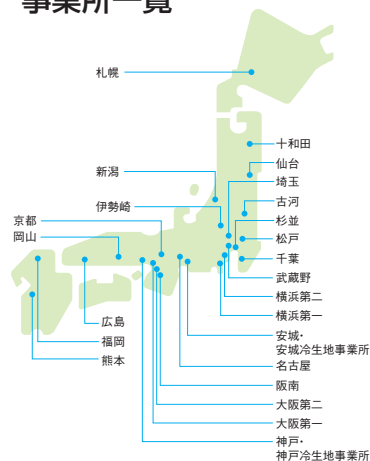
連結	29,024名 (男性21,955名、女性7,069名)
当社	19,935名 (男性15,800名、女性4,135名)

## 重要な子会社

会社名	資本金(百万円)	当社の議決権比率(%)	主要な事業内容
株式会社不二家	18,280	53.9	洋菓子、チョコレート、キャンディ、クッキー等の製造及び販売
株式会社サンデリカ	2,000	100.0	調理パン、米飯類等の製造及び販売
株式会社ヴィ・ド・フランス	480	100.0	ベーカリーカフェの経営
ヤマザキビスケット株式会社	1,600	80.0	ビスケット、スナック等の製造及び販売
株式会社東ハト	2,168	95.4	ビスケット、スナック等の製造及び販売
株式会社イケダパン	1,250	80.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造及び販売
大徳食品株式会社	100	100.0	麺類の製造及び販売
ヴィ・ド・フランス・ヤマザキ,Inc. (米国)	5,000千US\$	100.0	ベーカリー製品の製造及び販売並びにベーカリーカフェの経営
株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル	236	100.0	パン用冷凍生地等の製造及び販売並びにインスタベーカリーの経営
株式会社サンキムラヤ	100	100.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造及び販売
株式会社スリーエスフーズ	480	100.0	パンの製造及び販売
株式会社高知ヤマザキ	100	100.0	パン、和・洋菓子等の製造及び販売
株式会社末広製菓	100	100.0	米菓、調理パン、米飯類等の製造及び販売
株式会社ヤマザキ物流	300	100.0	物流事業
株式会社サンロジスティックス	380	100.0	物流事業
株式会社ヤマザキエンジニアリング	80	100.0	食品製造設備の設計、監理及び工事の請負

- (注) 1. 大徳食品(株)は、(株)サンデリカ全額出資の子会社であり、当社の議決権比率は間接所有割合であります。  
 2. (株)サンロジスティックスは、当社と(株)ヤマザキ物流がそれぞれ50%ずつ出資しており、当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。  
 3. 連結子会社は、上記重要な子会社16社を含む28社であります。

## 事業所一覧



**本 社** 東京都千代田区岩本町3-10-1  
**松 戸 工 場** 千葉県松戸市南花島向町319  
**千 葉 工 場** 千葉県千葉市美浜区新港22  
**武蔵野工場** 東京都東久留米市柳窪2-5-14  
**埼 玉 工 場** 埼玉県所沢市坂之下85  
**杉 並 工 場** 東京都杉並区高井戸西3-2-30  
**横濱第一工場** 神奈川県横浜市戸塚区上柏尾町15  
**横濱第二工場** 神奈川県横浜市都筑区東方町188  
**古 河 工 場** 茨城県古河市丘里7  
**伊勢崎工場** 群馬県伊勢崎市粕川町1801  
**仙 台 工 場** 宮城県柴田郡柴田町槻木白幡2-9-1  
**新 潟 工 場** 新潟県新潟市江南区二本木4-12-8  
**十和田工場** 青森県十和田市稲生町1-13  
**札 幌 工 場** 北海道恵庭市恵南10-1

**大阪第一工場** 大阪府吹田市幸町29-1  
**神 戸 工 場** 兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1  
**大阪第二工場** 大阪府松原市三宅東2-1835-5  
**阪 南 工 場** 大阪府羽曳野市広瀬161  
**京 都 工 場** 京都府宇治市榎島町目川100  
**名古屋工場** 愛知県名古屋市中区玉池町36  
**安 城 工 場** 愛知県安城市二本木新町2-1-3  
**岡 山 工 場** 岡山県総社市井尻野800  
**広 島 工 場** 広島県広島市安佐北区大林2-3-1  
**福 岡 工 場** 福岡県古賀市古賀69  
**熊 本 工 場** 熊本県宇城市松橋町浦川内2388  
**安城冷生地事業所** 愛知県安城市二本木新町2-1-3  
**神戸冷生地事業所** 兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1  
**海外駐在員事務所** 米国、パリ、台北、上海、ジャカルタ、ホーチミン

# 株主メモ

---

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当の基準日	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公 告 方 法	電子公告によるものとし、当社のホームページ ( <a href="http://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/">http://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/</a> ) に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株 式 の 上 場	東京証券取引所市場第1部

---

## 株式に関する手続き

- 株式に関する各種手続き(住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問い合わせください。

- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていない株主様の株式につきましては、特別口座で管理されております。特別口座に関する各種手続き(証券会社の口座への振替(※)、住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。

(※)証券会社の口座への振替について

特別口座では株式の売買を行うことはできません。売買を行う場合は証券会社の口座に株式を振り替えてください。

・証券会社の口座をお持ちでない株主様は、あらかじめ証券会社で口座開設をしてください。

・単元未満株式の買増請求・買取請求につきましては、特別口座のまま行うことができます。

特別口座に関する各種手続きに必要な用紙のご請求は、上記のフリーダイヤルまたは下記のホームページで受付しております。

◎ ホームページアドレス <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

- 未払配当金のお受取りにつきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。